

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 くさぶえ)

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 9 日	開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、広々とした建物が特徴である。畑での収穫やその収穫物での調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合ったその人らしい暮らしが送られるように配慮しています。法人に2つのグループホームがある利点を活かし、お互い協力しながら情報交換を行い、よりよいグループホームになるよう努めています。又、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かして行くよう努力を重ねています。家庭的な雰囲気の中で、常に入居者様主体の介護を意識し、「笑顔あふれる我が家」の理念のもと、笑いある介護を目指し頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は新緑、秋の紅葉などホームの何処からでも眺められる自然環境の中で、理念「笑顔あふれる我が家」を目指し「その人らしさを大事にして」職員全員で支援しています。コロナ禍のため地域の人々との交流が出来なくなり、外出や家族との面会も制限されていますが、事業所内でのさまざまな行事や畑での農作業、季節の花見学などで利用者が楽しみ張り合いのある生活が出来るよう取り組んでいます。職員は研修を通してケアの質・技術の向上に努め、法人全体と協力しながら利用者一人ひとりが満足して笑顔が見られる生活が送れるよう支援している事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 19 日	評価結果決定日	令和 4 年 11 月 8 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でお一人お一人がその方らしい生活を続ける事を支える為、職員の思いを取りまとめ、事業所内に理念を掲示している。又、ネームプレートにも入れており、時折確認しながら各自意識付けを行っている。スタッフ会議などでも理念に添ったケアが出来ているか確認している。	利用者との気兼ねない会話や楽しみや張り合いのある生活、その人らしく落ち着ける居場所づくりなど、一人ひとりが理念に沿ったケア指針「職員の思い」をもって支援している。スタッフ会議などで振り返り、利用者の笑顔に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナ禍ということもあり、外出制限があり、地域とのつきあいやつながりを持つことが出来なかった。例年は、地域の行事に参加したり、外出の際はボランティアとして同行して頂いて日常的に交流している。	コロナ禍により法人全体で外部との接触を禁じ、また地域行事もほとんどが中止となり利用者も地域交流に参加する機会が無くなっている。運営推進会議地域委員からは水害避難訓練時、利用者への声掛けや誘導をしてもらうなど事業所と地域とは協力関係を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議において、事例紹介や生活の様子を写真で見ながら説明を加えることで、認知症の理解や支援方法をお伝えしている。また、水害訓練にも参加頂き、実際認知症の方への声かけと誘導方法を体験して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動状況・事故報告・ユニット毎のエピソードなどを報告している。また、スライドにて日常の様子を見ていただき、事業所の理解を得られるように努めている。委員の方からは、地区の情報、報告を聞き、話し合いを行っている。コロナ感染拡大により、推進会議が行えない月もあったが、文書にて情報を報告している。	5月開催時は事業所の現況やコロナ対応の説明、事故報告、スライド写真の映写で利用者のふだんの様子や活動状況を見てもらい、市からの情報提供や地域代表の交流が出来なくなって寂しいなどの意見が出ており、事業所の実情を理解してもらっている。7月以降は委員へ手渡しての文書開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議では市職員から介護保険関連情報として、市や他事業所の情報を得ている。また、入居者に関する相談や制度上の手続きなど情報や助言を頂いている。	市担当者が運営推進会議委員となり、事業所状況の把握や取組みの理解を得ながら相談などにも助言をもらっている。コロナ情報やその対応策など運営に活かし、連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所内で身体拘束適正化委員会を設け、全職員が委員となり、3ヶ月ごとに会議を行い、現状について意見を出し、身体拘束にあたる行為を日頃のケアで行っていないか、振り返り確認している。事業所の玄関には鍵をかけず、常に利用者ひとりひとりの行動を把握し、声がけや見守りを行っている。	入居時「指針」を示して身体拘束のないケアを行っていることを説明し利用者・家族等の理解を得ている。身体拘束適正化委員会を開催し、職員全員で事例をもとに言葉遣いや抑圧した支援になっていないかなど日頃のケアを振り返り確認している。利用者一人ひとりの情報を共有し、安心して生活できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所毎に虐待防止委員会・感染対策委員会が設置され、全職員が委員となっている。スタッフ会議で、指針の読み合わせ、研修を行っている。不適切ケアが行われていないか、些細な事例でも会議等で繰り返し話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人職員を対象とした、権利擁護やコンプライアンスについての動画視聴、研修会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り丁寧に説明している。特に利用料金や重度化、看取りについての対応、医療連携体制などについては詳しく話し、同意を得ている。入院に伴う退去についてや将来的な内容についても尋ね、不安や疑問に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人では3年に一度、アンケート調査を実施し、ご利用者や御家族の意見を頂いている。又、事業所玄関には「ご意見箱」を設置している。家族の来訪時や電話で頂いた意見等をスタッフ会議で検討し運営に反映させている。利用者の要望についても、日頃の会話の中から叶えられるよう心がけている。	利用者からの要望は「特別の日」や生活する中で出来るだけ叶えられるようにしている。家族等とは毎月のお便りや季刊誌「あのねのね」で利用者の様子を伝え、法人アンケート、電話連絡や来訪時に意見要望を聞いている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて法人、事業所の決定事項を伝達し、職員の意見も聞いている。必要時には管理運営会議に反映するようにしている。法人への意見、要望については、親睦委員会の活動として全職員に毎年アンケート調査をしている。各事業所から選出された委員が委員会へ持ち寄り職員の意見、要望が反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、少なくとも年2回人事考課を実施し、職員個々の実績や状況を把握している。安全衛生委員会による労働環境の把握、ストレスチェックの実施、産業カウンセラーによる面接制度の採用により、メンタルヘルスの対応にも配慮している。	/	
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、今年度から各事業所の研修係が主となり、研修の案内や研修日誌の管理等を担い、全職員が働きながら学べるよう工夫している。コロナ感染予防の為、ZOOMにて各事業所の代表1名が参加し、スタッフ会議にて伝達研修をして内容を共有している。外部研修でもZOOMを利用して研修をしている。	内・外部研修には代表1名がズームで参加し、スタッフ会議で研修内容・感想、研修評価を伝達し共有出来るようにしている。また個人目標を年度初めに立て6ヶ月ごとに管理者が面談して評価を行い、ケアの質や技術の向上を図りながら職員を育てている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内にあるグループホームとの連携を図り、情報交換や意見交換を行っている。コロナ禍にあってネットワークづくりや勉強会等の活動は薄くなっているが、サービスの質の向上をさせていく取り組みはしている。	コロナ禍で同業者との交流の機会はなかったが、法人内他事業所との研修会や委員会等で情報や意見の交換をしながらサービスの質向上を図り、利用者が安心して暮らせるグループホーム作りをしている。	

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や実調、ホーム内見学等で本人の心配事や要望等を理解するようにしている。家族から入居前に生活歴等の情報を収集し、利用者の把握や信頼関係の構築に繋いでいけるようにしている。さらに自宅で使用していた馴染みの物を持参して頂き、安心出来るようにしている。	/	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族との関係性も踏まえ、要望や困っていることを把握し、信頼関係を築けるように努めている。来訪時や電話などでも話せる機会を作っている。	/	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で本人、家族の意向を確認し、どのような支援が必要なのかを検討し、支援に繋げている。又、その内容については関係する職員で情報共有している。法人の総合相談センターとも連携し、状態に応じた支援に努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、食事準備や掃除、洗濯物干しや畳み方、畑仕事等の作業を一緒に行っている。昔ながらの知恵を教えて頂き、馴染みの関係と信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の近況報告と家族来訪時及び電話連絡等で状態を報告し、家族と情報共有をしている。今年度はコロナウイルスの為、面会は窓越しとなっている。また、特変があった場合には面談を行い、共に支え合う関係性を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルスの影響で外出が困難な状況が続いているが花見見学やドライブなど感染対策をした上で行き、気分転換を図っている。また、ご本人の希望がより、馴染みの床屋に通われている方もいる。遠方にご家族には絵手紙を書いたり、関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切に支援している。気の合う同士で過ごせるように食席を配慮し、お互いがいることで安心され、支え合える関係となっている。時にはトラブルになることもあるが、職員が間に入り、対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化などで入院や他施設に移られた方には電話等で連絡を取り本人の様子を伺ったり、家族から話を聞き、必要な支援があれば都度、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話やエピソードを記録に残し、職員間で情報共有している。ご家族からも情報をいただき、本人の希望や意向の把握に努めている。	利用者との会話や関わりの中で聞きとった思いや意向はケア記録とミーティングノートに記録している。職員は出勤時に確認することで把握し、全員で共有している。「特別の日」を設け、利用者の希望する食事や外出などを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力を得て、生活歴を教えて頂きながら、生活の把握に努めている。ご本人から直接お聞きしたり、普段の何気ない会話の中や、日々のアクティビティの様子を見ながら情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が持つ力を十分に発揮出来る様、支援している。関わりや声がけを工夫し、個人の生活リズムを尊重している。各自の趣味や特技を通して、関わる時間を多く設けて力の発揮が出来るように現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向等を事前に伺い、意向に沿って担当者、計画作成担当者がケアプランを作成している。コロナ禍でご家族にはカンファレンスに出席いただけなかったが、グループ会議内でカンファレンスを開催し職員間で情報共有している。状態に変化があった場合は都度見直しを行っている。	サービス担当者会議でカンファレンス(検討会)を開催し、利用者や家族等の意向を取り入れ看護師を交え意見交換をしながら情報を共有して利用者が「その人らしく」生活出来るよう内容を確認し、プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画の実施状況等、エピソードを交え毎日記録に残している。出勤時は各自記録やミーティングノートに目を通し、情報収集を行っている。職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も、一人ひとりの暮らしを支える地域資源を活用している。かかりつけ医を継続し、受診は基本家族の付き添いを依頼している。今年度はコロナウイルス感染拡大の影響もあり、外出はドライブだけでボランティアの受け入れはなかった。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は日頃の様子を記入した連絡表を持参し、かかりつけ医には受診結果や指示を記入して頂いている。基本的には家族同行受診としているが、不可能な場合は職員が同行する支援も行っている。又、訪問診療を依頼しているケースもあり、複数の医療機関との関係を密にしている。	入居前からのかかりつけ医に家族付き添い受診を基本としているが、現在は感染リスク回避のため、状態が安定していれば医師の判断で処方された薬を家族に届けてもらう事が多くなっている。また毎週グループホーム専属の連携看護師による訪問もあり、利用者や家族・職員の安心に繋がっている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と医療連携体制を行っており、週1回の訪問時に日頃の健康管理や、相談、助言をもらっている。状態に変化があった時は都度、状態を報告し受診に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の支援に必要な情報を医療機関に提供している。入院中は家族に状態を聞いて情報を得ている。早期に退院できるように、病院関係者には家族と一緒に面談をさせて頂いている。利用者が安心して治療出来るように支援している。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の指針」についてご家族に説明し同意書を頂いている。、重度化した場合には、ご家族や主治医に相談し「看取り同意書」の取り交わしを行なっている。職員間で看取りについて話し合い、研修も行っている。緊急時の訓練も行い、チームで支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合の指針」に沿って説明し、重度化して口から食事が摂れなくなった場合などに医師の説明を受けその後の生活方針を話し合っている。他施設利用を希望する方には早めの申し込みを促し、看取り希望の場合には医師や看護師と連携を図り、定期的に研修を行いながら体制を整えている。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間訓練計画書をたて、毎月の担当者が主となって訓練を実施している。マニュアルを確認しながら、反省点を共有し改善している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人主導で年2回の火災訓練や、防災研修を実施している。今年度は水害訓練を実施した。また、地域の2地区と災害協定を結び、協力体制を築いている。	年2回施設合同避難訓練を予定しており今年度は1回目を水害想定で実施している。事業所独自の訓練も様々な想定で頻繁に行っており、参加者で反省点を話し合いスタッフ会議で改善策を検討して災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は声がけや声のトーンに留意し、利用者のプライバシーを損ねないような対応を心がけている。声がけや対応で気づいた事は、事例を上げながら話し合い、一人ひとりに合わせた関わりを心がけている。	利用者の趣味や特技を引き出し、音楽教師だった方にはピアノを弾いてもらいみんなで歌い、畑仕事を得意とする方は野菜を育てるなど、その人らしい暮らしを支援している。手伝いにはお礼の言葉を忘れず、言葉や語調を振り返りながら一人ひとりの誇りを尊重している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では利用者が主体となり、本人の思いや願いを表現出来る様に傾聴している。思いや表現が出来ない方には、今までの生活の中から思いを汲み取り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、特に時間を区切らず利用者の思いやペース、その日の希望を尊重している。体調に配慮しながら、個別性のある支援を行っている。利用者の生きがいや楽しみを情報共有しながら支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、離床の際には髪をくしで整え、髭をそって頂きその方のこだわりや身だしなみを大事にしている。出来ない所だけ手伝っている。その人らしい身だしなみやおしゃれがいつまでも出来るように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜や季節に合った旬の食材を使用し、職員と一緒に調理や盛り付け、片付けを行っている。苦手な食材は代替え品を提供している。誕生日には大好きなものを取り入れている。	利用者の希望に合わせたユニット毎の献立で、地元商店に食材を発注し利用者に手伝ってもらい職員が調理している。季節毎の郷土料理や行事食、一人ひとりの特別な日のメニューなどもあり「おいしいね」の声も聞かれ、食から生活の豊かさに繋げている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合った食事の提供を心がけている。体調や残存機能、摂取状況、食材に応じて刻み食にするなど食事形態を工夫している。水分が摂れない方にはこまめに提供したり、ゼリーで対応したり、1日の水分量の状態把握に努めている。栄養バランスにも気を配りながら献立を作成している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアの声かけや必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔を心がけている。週2回、義歯剤を用いて洗浄もしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。自尊心や羞恥心に配慮し、残存機能を活かしたケアをしている。日中はなるべくトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、時間の間隔や着衣の上げ下ろし、職員の手を借りたくない方など一人ひとりに合わせた対応で、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。声掛けは耳元でさりげなく行うなど、自尊心を損なわないよう注意している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多いものや乳製品、オリゴ糖などを使用し、便秘の予防に努めている。排泄チェック表を活用し、便性を確認しながら下剤の過剰投与にならないように管理している。医療連携看護師の助言を頂き、個々に応じた予防に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望する時間帯や体調に合わせて入浴が出来るように支援している。入浴を拒む際には利用者の意思を尊重し、時間を変えたり、入浴券を作成したりと工夫している。	両ユニット共に機械浴槽を設置し、状況に合わせて二人介助などで安全に配慮しゆったり気持ちよく入ってもらっている。拒否する方には当日限定の「無料入浴券」を渡したり、気の合う方の後追いで誘導するなど、自ら入浴したくなるように心掛けている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースや体調に合わせて休息の声かけを行っている。個々の生活習慣を尊重しながら日中は活動を取り入れ、不安が見られた時にはコミュニケーションを図り、落ち着くまで一緒に過ごしたり穏やかな日常が送れるように配慮している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を確認し、処方薬の効果や副作用等を把握できるよう努めている。処方の変更時は、受診時連絡表からの医師の指示事項や御家族からの情報により確認している。服用後の状態変化について観察し、必要があれば医療連携看護師と連絡を図っている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話から一人ひとりの生活歴に合った活動や楽しみ、興味のあることを見つけ、自分らしく喜びのある日々が過ごせるように支援している。個々の役割を大切にしており、作業後は感謝の言葉を添えている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染拡大が収束されず、外出の機会を制限せざるえない状況にある。今年度は桜、つつじ、あやめ、ゆり見学を行った。天気の良い日には畑での作業や散歩などを行い気分転換を図っている。	バスハイキングで季節毎の花見に出かけ散策しながら吹く風や花の香りを楽しみ、近隣の散歩や畑仕事なども日常的に行い、生き活きた姿が見られている。家族の協力で見済みの理容店に出かけたり職員と自宅を見に行ったり、気分転換に個別外出することもある。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方には御家族や本人の希望でGHで管理している。個人でお金を所持している方もおり、希望に応じて使用できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話できるように支援している。自分で電話を掛けられる方もおり、居室で会話されている。遠方の御家族の方からはがきを受け取った時は、返信のはがきを送れるよう支援をしている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアからは山や畑の野菜や花の生育が見え、季節感を感じられるようになっている。壁の装飾は季節に合ったものを利用者と共に作成して飾っている。入居者同士の関係性に配慮し、職員も環境の一部であることを認識し、音や言動に配慮している。利用者一人ひとりが居心地良い空間づくりに努めている。	明るく広いフロアは、レクリエーション会場や食事支度の作業場ともなり、時に真剣な表情で向き合い、やりがいのある生活の場となっている。利用者同士の関係に合わせた食席の配置、また少し離れたソファや小上がりの畳スペースなどを活用し、穏やかに過ごせるよう配慮している。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士や静かに過ごしたい方、会話したい方、それぞれの思い思いに過ごしていただけのようにテーブルの配置を考慮している。玄関やフロアにソファを設置し、ゆったりとくつろげる居場所の工夫している。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物や思い出の物を身の回りに置き、落ち着ける居室づくりをしている。テレビを観る習慣のある方はテレビを設置し、御家族の写真や仏壇を飾っておられる方もいて本人が心地良く穏やかに過ごして頂けるように工夫している。	居室にはベッド・クローゼット・ソファを備え、使い慣れた家具や道具を持ち込み、利用者の身体状況や好みに合わせて配置し居心地よく過ごせる「我が家」となっている。居室入り口には災害避難時の誘導方法「自立歩行・車いす」などを示す表示もあり、有事に備えている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かりやすいように名前や案内を明示している。洗面所には個々の洗面用具置き場を設け、自ら洗面し身だしなみを整えていただけのようにしている。日めくりカレンダーを設置し、いつでも日付が確認できるようにしている。		